

和歌山森林管理署

担当者
森林技術指導官：萩原敏郎
地域林政調整官：藪本博文
TEL:050-3160-6120

- 県土の77% (363千ha) が森林である和歌山県は、昔から「紀州木の国」といわれ、温暖多雨な恵まれた自然環境の中で生長した「紀州材」を生み出す林業地であり、県内のみならず各地で「紀州材」は利用されています。
民有林では、スギ、ヒノキを中心とする人工林が209千haで、人工林率が61%と全国平均46%を大きく上回っています。また、人工林の年間成長量は90万m³あり、資源構成は11齢級 (51~55年生) の林分が最も多くなっています。木材等生産機能と地球温暖化防止機能の観点からは、これらの成熟した森林資源を伐採し、利用した上で跡地に再造林を行う「若返り」が求められています。
一方、16千haある国有林の大部分は、紀北・紀中・紀南の各流域の水源地帯に散在しながら位置しており、国土保全、水源かん養等の公益的機能の発揮に寄与しています。また、高野山、権現山、那智山等の国有林は、世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」のコア及びバッファゾーンとなっており、歴史的経緯及び文化的背景を踏まえた森林景観の保存・管理を行っています。
- 和歌山県との地域林政連絡会議では、平成25年度の地域課題の解決に向けた取組の総括を行い、平成26年度の民国連携の取組に向けて、低コスト造林の推進、林業専用道作設等に係る技術向上のための研修会の開催、カシノナガキクイムシ等による森林病虫害対策等について意見交換を行いました。
- 国有林が所在する市町の地域課題や共通課題の把握にあたっては、国有林野等所在市町長有志協議会等の各種会議の場を活用しながら幅広い情報収集を行っており、課題解決に向けた連携した取組を展開しています。



(和歌山県との地域林政連絡会議の様子)

地域産業の活性化

【課題】 伝統的工芸品「紀州へら竿」用のスズ竹 (高野竹) の立ち枯れ原因の究明 (新規)

【取組状況】

・高野山国有林をフィールドとして提供し、和歌山県、橋本市、紀州製竿組等との現地検討会を実施。

・スズ竹の生育を促進するため、林床内の光環境整備 (下草刈り) を実施。

・ニホンジカによる食害を防止のため、調査区域内に獣害防止ネットを設置。

【成果と今後の課題】

・現地検討会において、「林床環境とシカによる食害」がスズ竹の生長に与える影響等を考察するとして検討。

・和歌山県等と共同で実施した暗視カメラ、獣害防止ネットの設置について、NHKによる取材・報道により、広く一般の者へ広報を実施。

・暗視カメラによる定点観察、生育状況の経過観察によるデータの蓄積により、今後、学識経験者等の知見も含めた検証を予定。

「紀州へら竿」とは、

「へらぶな」を釣る専用の釣りのこととて、真竹(まだけ)、高野竹(こうやちく)、矢竹(やたけ)の3種類の竹を組み合わせると1本の竿になります。

昭和63年に和歌山県の伝統工芸品第一号として指定され、その技術・技法の伝統性が認められ、平成25年3月8日付けで経済産業大臣指定の伝統的工芸品となりました。



(検討会の様子)



(現地検討会の様子)



(林床の環境整備の様子)

林業技術の普及

【課題1】 民有林への路網整備技術の普及（新規）

【取組状況】

・ 和歌山県と共催で「林業専用道現地検討会」を開催し、西ノ河国有林内の林業専用道において、民有林行政機関、林業事業者等による現地検討及び検討結果について意見交換を実施。

【成果と今後の課題】

・ 民有林事業者関係者の林業専用道等の路網計画作業及び維持管理等に係る知識・技術の向上に寄与。
・ 今後も路網整備技術の普及・向上に向けて関係機関と連携した検討会等を予定。

＜林業専用道現地検討会の様子＞



（新設工事箇所の概要説明の様子）



（4年経過した丸太組土留工を確認する様子）

【課題2】 架線集材の低コスト化、作業システムの構築（継続）

【取組状況】

・ 和歌山県、関係市町、森林組合等により、民有林と国有林の一体的な管理経営に向けた検討会を開催し、地域条件に適合した効率的な作業システム及び路網配置の検討等を実施。

・ 宮城川国有林に隣接する民有林所有者の検討会参画に向けた協議を実施。
・ 森林作業道の路線選定について、民有林所有者と現地で意見交換を行いながら実施。
・ 和歌山県が主催する架線集材による主伐作業の現場視察に参加し、林業事業者等との意見交換を実施。

【成果と今後の課題】

・ 森林の管理経営に係る諸課題について、検討会により民有で共通認識を持つことができ、これまで接点が無かった民有林所有者等との連携体制の構築に寄与。今後、施業の集約化に向けた民有林関係者との合意形成を予定。
・ 主伐箇所の現場視察において、関係機関等との情報共有により、生産性・収益性の高い林業を推進していくための林業技術のスキルアップに貢献。

＜民有林と国有林の一体的な管理経営に向けた検討会の様子＞



第1回：和歌山署での検討会



第2回：林業専用道路線の踏査



第3回：コントロールポイントの確認



第4回：和歌山署での検討会

低コスト造林の推進

【課題】 民有林への低コスト造林の普及（継続）

【取組状況】

・ 造林用種苗需給状況連絡会議において、国有林における主伐・再造林の方向性を説明し、種苗協同組合等へコンテナ苗の需要について情報提供を実施。

【今後の課題】

・ 民有林における再造林に必要な「小花粉スギ」のコンテナ苗は、母樹が少なく生産量が厳しい状況にあるが、引き続き、民有林への低コスト造林の普及に向けて、関係機関と連携した取組を検討。